

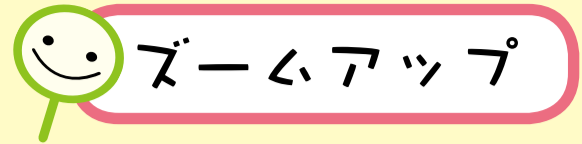
高校生が市議会を傍聴



3月12日(月)、稚内高校と稚内大谷高校の2年生の生徒たちが稚内市議会を傍聴しました。

自分たちが住むまちの議会を実際に傍聴することで、行政への関心や、公共的な物事に参画しようとする意識を高めることを目的として行われ、生徒たちは終始資料を確認したり、ノートにメモをとったりと真剣な表情で傍聴していました。

大谷高校2年の星加 那夏子さんは「議会を傍聴したのは初めてでしたが、自分たちの生活の中の細かいところまで時間をかけ、議論されていることがわかりました。これまで、すごく難しいと思っていたことが身近に感じられるようになりました。」と話していました。



たくましく最北の雪原を駆け抜けろ！



今年も大沼特設会場で開催された第35回全国犬ぞり稚内大会。

初日の2月24日(土)は悪天候のため中止となり、25日(日)のみの開催となりましたが、メインレースの6頭引きレースをはじめ、4種目のレースが行われ、道内のほか宮城県などから44チーム99頭の犬がマッシャーと一緒に参加しました。

マッシャーのかけ声に合わせて、力強くゴールを目指す懸命な姿に大きな声援が送られていました。

このほかにも、観客体験レースや愛犬と来場者を対象とした「ワンワンダッシュ」なども行われ、会場を湧かせていました。



「稚内ブランド」学んで、作って、美味しく食べよう！



3月10日(土)、保健福祉センターを会場に、「稚内自慢の食材『稚内ブランド』学んで、作って、美味しく食べよう」と題し、地方創生推進事業・稚内学特別連携講座が開催されました。

「稚内ブランド」の魅力を学ぶ座学が行われた後、北海道フードマイスターの木村 光江氏による調理実習が行われ、13名の参加者はアドバイスを受けながら、ポンたらと勇知いもの簡単コロッケなど、稚内ブランド認定品を使った3つのメニューに挑戦。できあがった料理をみんなで食べながら、改めて、地元稚内の魅力を再確認していました。

製品づくりのヒント「食セミナー」



3月16日(金)、総合文化センターで「日本のてっぺん『食』セミナー」が開催され、市民や企業の関係者約50人が参加しました。

セミナーでは豊富町の「あぐりネット宗谷(有)工房レティエ」の代表取締役社長 久世 あも氏を講師に迎え、ジェラートやチーズなどの製品づくりに対する作り手の熱い思いが語られたほか、旭川を拠点に商品のパッケージデザインなどを手掛けている、「デザイン事務所カギカッコ」代表のゲンママコト氏により消費者に手に取ってもらえるパッケージデザインについてのアドバイスなどがあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

交通安全を願って



3月15日(木)、「稚内市交通安全母の会」の皆さんが、新入学児童の交通事故防止を願って手編みで作成した「愛の鈴」約300個が馬庭 園子会長から工藤市長に手渡されました。

新一年生が事故に遭わないようにと、メンバーのみなさんによって祈りを込めて1つ1つ手作りされたこの愛の鈴は、各小学校の入学式にあわせて届けられ、新一年生のランドセルに取り付けられます。

真新しい黄色い可愛らしい鈴がランドセルにゆれる季節。ドライバーの皆さんにも安全運転を呼びかけています。